

すいかずら

平成18年11月20日発行

編集 社寺建造物美術協議会

発行人 澤野道玄

〒604-8232 京都市中京区錦小路通
油小路東入る空也町491
(株)さわの道玄内

TEL (075)254-3885 FAX (075)254-3886

文化財 それは日本の光です

文化庁文化審議会政策部会

(平成18年5月12日)における提言

社寺建造物美術協議会 会長 澤野道玄

日頃文化財の保存修理にたずさわりながら、わが国の文化財保存の現状と問題点について思うところをお話させていただきます。

私達の業界は、伝統産業界においてもその一翼を担いながら、文化財保存修理に取り組んでまいりました。かつての日本社会は文化という基盤の上に経済活動があつて、それぞれの時代を形成してまいりましたが、残念なことこの戦後

60年間は、文化と経済の関係が主客転倒し経済優先社会になってしまいました。その結果は申すまでもなく、皆様が想像される以上に「文化力」を衰退させ、日本を愛護させてしまったのです。

たとえば伝統産業界の痛ましい状況をお話いたしますと、全国の漆の産地では地域の特産品とうたいながら、安かろう悪かろうといった外国製品やプラスチック製品が氾濫いたしております。また後継者といえる二十代、三十代の技術者がほとんどいなくて、五十代、六十代の人が未だに中心に



なっている現状は、ほとんどの産地で共通しております。漆の国ジャパンから、六千年とも八千年ともいわれる文化が消える日も、そう遠くはありません。もうひとつ、わが国の畳文化も風前の灯火であります。京都の一流料亭でさえ、備後表で有名であった畳の本場岡山県でさえ、プラスチックの畳が主流になっております。畳の材料であるイグサも国内産はわずかとなり、主産地である中国も経済発展のあおりで、生産しなくなつたと聞き及びます。文化財保存修理にも使われています漆もまた主産地は中国であり、そのうち同様な理由で生産しなくなるのでしょうか。国内産漆は

価格も中国産の6〜7倍と高価であり、ごくわずしか採れませんが現状はそれでも生産過剰なのです。

このように伝統産業の惨状をご紹介いたしますと、まったくきりがなく悔しい思いになります。要するに伝統産業はすでに産業ではなくつたと明言できます。産業は文化を育む経済土壌であります。今後伝統産業からの文化的な発信は絶望的であり期待できないでしょう。

私達の文化財修復業界もご多分に漏れず、それぞれの伝統産業としてのバックボーンを失い、ただ公共工事に望みをつなぐといった心細い状態にあります。が、

伝統技術の継承や人材育成、文化財保存に対する様々な努力は活発に行っております。今や伝統産業に替わって、伝統文化の重要な使命を担わなければならぬ存在であります。しかし種々様々な問題が横たわっております。一つは技術伝承の問題です。すでにかつてのような徒弟制度は崩壊いたしました。伝統技術は徒弟制と共に今日まで継承されてまいりましたが、人材の高学歴化や3K労働に象徴される仕事の過酷さからくる後継者不足、最低賃金法や仕事量の減少による親方自体の不足などの理由によって思うにまかせない状態にあります。

伝統技術の継承や人材育成、文化財保存に対する様々な努力は活発に行っております。今や伝統産業に替わって、伝統文化の重要な使命を担わなければならぬ存在であります。しかし種々様々な問題が横たわっております。一つは技術伝承の問題です。すでにかつてのような徒弟制度は崩壊いたしました。伝統技術は徒弟制と共に今日まで継承されてまいりましたが、人材の高学歴化や3K労働に象徴される仕事の過酷さからくる後継者不足、最低賃金法や仕事量の減少による親方自体の不足などの理由によって思うにまかせない状態にあります。

